

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年比で来客数が107%と非常に好調を維持しており、売上も104%とついて来ている。	
		住関連専門店（仕入担当）	販売量の動き	・気温が高く、園芸関連、植物は前年比2けたの伸びを示している。利益率はやや低下気味であるが、売上高の底上げによりカバーできている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・例年活況の七五三祝いなどの予約状況は芳しくないが、宴会や宿泊の需要は上向きになっている。	
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・今月は法人の動きが良く、個人の宿泊客も秋の紅葉シーズンに入って増えている。また、個人の海外旅行も動きが良い。	
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・インターネット等の問い合わせも増えつつあり、成約にもつながっている。同業他社の状況を含めて考えても、やや良くなっている。	
	変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・9月の高温天候のため、旬のきのこ類が不作で、今月中旬まで客の期待にこたえられなかった。
			一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・天候不順、原油の高騰も併い、客の購買意欲は控えめで慎重なため、売手の仕掛けには乗ってこない。
			百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・食料品や身の回り品は前年並みの売上を確保できているが、宝飾、絵画等の高額品が苦戦しており、比較的裕福な層の消費に陰りが見られる。
			スーパー（統括）	販売量の動き	・9月の残暑の反動からか、10月に入り一気に衣料の需要が高まり、特に婦人、子供のアウターの伸びが大きい。食品は、生鮮食品、総菜の伸びが顕著で、個食化、簡便性の傾向が更に強くなってきているが、加工食品は値上げに対する警戒感から特売品への集中が見られ、伸び悩んでいる。
			コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣にいくつもファーストフード店があるため、米飯類だけがどうしても低迷している。それ以外はよく健闘している。
			衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・前年と比べて朝晩涼しい日が続く、秋冬物の商戦としては良いかと思ったが、今一つ動きが悪い。
			衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・天候不順、温度の高い分だけ買い控えがあるような状況である。ニット類などの要望はあるが、やはり暖かいせいで買物を控えている雰囲気があり、来客数が少ない。
			乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が発売になっても10月度の販売台数は前年比80%程度である。
			自動車備品販売店（経営者）	単価の動き	・全体的に客足が鈍い。交通量も今一つ少ない。単価も安い車が求められ、高価な車はほとんど動いていない。
			一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・飲食店に話を聞くと、景気の良い話はないが、すごく悪いという話もなく、客もそれほど不景気の話をしていない。
			スナック（経営者）	来客数の動き	・通行量が落ち込んだまま回復する兆しも見えてこない。夜間の引けも早く、フリーの客足がどんどん少なくなっている。
			都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・このところ旅行会社関係の予約が激減している。月に3～4件、当初は100名前後押さえてあるが、最終的にまとまらず20～30名とか、キャンセルになってしまう状況である。
			旅行代理店（従業員）	単価の動き	・客単価に変化がない。旅行には行きたいが、お金をあまり使いたくないという傾向は変わらない。
			旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・客の様子は3か月前とあまり変わらず、20～30代の旅行人口が減っているように思われる。旅行に行こうとしない若い人が多く、旅行に使うよりどこか違うところにお金を使っているようである。
			通信会社（営業担当）	販売量の動き	・光回線の工事が進み、来春早々には当地域でもようやくサービスがスタートする。スタート時の諸費用や工事費を無料にして勧奨するものの、申込の伸びは鈍い。
通信会社（営業担当）			単価の動き	・原油価格高騰による仕入コストや販売経費等の増大に対し、販売競争激化のため小売価格に転嫁できない状況が続いている。	

	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・単価が若干上向きになっているが、その分来客数の動きが減少しているので変わらない。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・新しいコンペの企画に対する反応はあるものの、例年行われているコンペへの参加者は減少傾向にある。
	ゴルフ場（支配人）	単価の動き	・秋のゴルフシーズンに入り、前年同様に予約は順調である。しかし、アルコールを飲めないためにパーティーの単価が極端に落ち、客単価は下がっている。
	その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	来客数の動き	・先月は10%減少、今月は8%増と若干回復した。新年度に入り客の入庫台数が今までと違って波があり、アップダウンが激しすぎる。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・景気は相変わらず悪いままで、仕事があっても極めて安い価格で受注しなければならない状況である。発注側も安いのが当たり前で、そうでなければ他へ頼むからというような素振りである。法の改正もあり、それも含め極めて厳しい。
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・地方では地域間格差が広がっているせいか、地価も落ち着いており、実際の動きも鈍い。良くなるような要因も見付からず、沈滞している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・前年同様の広告宣伝をしても反応が少なく、同じ数字を上げるとなると広告の経費は増すばかりである。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・天気の変動もあるかもしれないが、時には売上好調の日もあるものの、合計でみると前年に比べ落ち込んでいる。
	一般小売店〔金物〕（経営者）	販売量の動き	・各商品ともますます値上げ攻勢が厳しくなっており、値上げ分を転嫁すると売上が下がるというような状況に陥っている。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・石油、ガソリンの値上がり、あるいは材料原価の値上がり等で非常に市場が厳しくなっている。
	スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・イベントセールにより衣料品の売上は伸ばせたが、食品は原料高騰による値上げの報道から、買い控えの傾向が出始めており、店全体としては非常に厳しい状況である。
	スーパー（統括）	販売量の動き	・買上点数の上昇がここ数年で初めて止まった。商品の値上げは、実際よりもムードが影響している。価格を据え置いているものに対しても販売数量が減っている。
	コンビニ（店長）	単価の動き	・客単価の落ち込みが激しく、このところ来客数も若干減っているため、売上はなかなか上がらない状況である。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・店内の改装で閉店セール、開店セールを開催したが、思ったほどの来店数がない。3～4年前であればもう少し来客数が多かったのではないかと実感している。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・販売量が前年に比べかなり落ち込んでおり、映像関連商品、テレビ、DVDレコーダー、パソコン本体などは、約90%の販売台数になってしまっている。
	高級レストラン（店長）	販売量の動き	・ディナータイムは常連客が多く比較的安定しているが、ランチタイムのフリー客が激減しており、前年比で3割ほど売上が落ち込んでいる。
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・市内の宿泊が停滞しており、稼働率は相変わらず前年を下回っている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・夜間の流しの乗車回数が減少している。利用客の絶対数が少ない上に、低料金のタクシーを選ぶ傾向になってきている。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・物価の上昇などにより、毎月の出費に対して過敏になっている。景気全体は悪くなっていると思わないが、消費者にとっては収入があまり変わらないのに税金や物価が上がることで必然的に消費には消極的になっているようである。
	その他レジャー施設〔アミューズメント〕（職員）	来客数の動き	・24時間営業をしている中で、週末、深夜はほとんど変わらないが若干プラスの状況であるが、その他の平日、日中、夕方の来客数は間違いなく減少しており、メリハリがはっきりつき過ぎている。週末より平日の方が日数が多く、また、時間的にも深夜帯より日中、夕方の方が長いので、トータルすると厳しくなってしまう。

		美容室（経営者）	販売量の動き	・天候などもあるだろうが、カットスタイルが中心で、パーマなど金額が上げられる客が少なくなっている。カラーも一時ほどの人気はなくなったので苦戦しており、売上が半分に落ち込む日もある。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・得意先、建設業、運送業の倒産が相次ぎ、連鎖倒産ということで売掛金の回収が難しい状況である。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・現場見学会や住宅展示場への来場者数が明らかに減少している。
悪くなっている		商店街（代表者）	お客様の様子	・最近、利用者の買上特典になるポイントカードやスタンプカード等の使用が増えている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・先月はパンツ類が好調であったが、今月は止まってしまった。また、昨年は5月にコート予約会を行い、その売上が上乘せになったが、今年はそれができなかった。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・毎年この時期は販売量が少ないが、今年は前年の70%しか売上がない状態である。
		住関連専門店（店長）	来客数の動き	・来客数は前年の90%で、商品の販売単価の値上げも影響している。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・9月に道路交通法が改正され、飲酒運転取締りが大変厳しくなった。地方では車が付き物なので、タクシーよりも代行車の利用が多くなっている。
		観光名所（職員）	販売量の動き	・新築の別荘の売上が前年に比べ大幅に減少している。
	企業動向関連	良くなっている	-	-
やや良くなっている		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・石油関連製品の値上げが止まらない。仕入れの上昇分は作業の効率を上げてカバーしている。
		その他サービス〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合い、受注量、販売量共にわずかではあるが増加傾向にある。客も活気があり、当分の間、このような状況が続く。
変わらない		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・例年に比べ特注品の受注量は増加傾向にあるが、多種少量、その上納期の短い品物が多く、大変対応しづらくなっている。
		一般機械器具製造業（生産管理担当）	取引先の様子	・建設機械、油圧機器の分野が増産傾向で、引き続き好調に推移している。客先からは「米国の住宅ローンの問題で北米の減速感があるお陰でどうにか生産が間に合っている」と聞いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・仕事はあるにはあるが、価格が下がり続けており、採算ベースに乗らない仕事がかかり出てきている。どうしてこんなに下がるのか、という感じである。原材料費、輸送費、その他一般管理費が上がっているなかで、受注価格はどんどん下がっていくという、経営者としては非常に厳しい状況が続いている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業ではIT関連部品を中心に在庫調整が進展し、改善の動きもみられるが、引き続き原材料価格の高騰や販売単価の下落圧力が下押し要因となっている。非製造業においても、個人消費の低迷に加え、観光関連産業を中心に客単価の減少が続いている。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・地域の全体的な資金需要は依然として停滞している。ただし、一部地域で住宅資金需要があることや、原油高騰の影響で小麦粉などの値上げを見越した運転資金の需要などがある。製造業についても、業種間格差や企業間格差はあるが、活発に設備投資を行う企業もみられる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・小売関係は、消費者の選別が進んでおり、郊外型ショッピングセンターは良いが、中心商店街や駅ビルなどは芳しくない。食品等消費関連の製造業、サービス業の業績は横ばいである。
やや悪くなっている		食料品製造業（製造担当）	それ以外	・商材がすべて上がり、いよいよ業界のトップが価格の交渉に動き始めている。この2か月で20%値上げとなったダンボールをはじめ、植物油関係がかなりの値上げをしてきている。商品の原価を本当に上げなくてはいけない状況になりつつあるが、まだ出ていない。

	食料品製造業 (営業統括)	受注量や販売量の動き	・低コストの輸入ワインに押されている上に、瓶、ダンボール等、資材の値上げもあり、じわじわとポディープローが効いてきている。	
	一般機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・海外生産がかなり多くなり、業務がどんどん少なくなっている。また、サブプライムローン問題でも仕事が3割程度減少している。	
	輸送業(営業担当)	それ以外	・冬物商品等の初回受注もあり、一時的に増えているが、荷動き的には前年並みである。しかしながら燃料の高騰により収益は圧迫されている。	
	広告代理店(営業担当)	競争相手の様子	・競合他社の媒体誌の大幅値引きが激しくなっている。上代の半値は当たり前前、無料掲載まで増えており、消耗戦の真ただ中である。	
	新聞販売店[広告](総務担当)	受注量や販売量の動き	・チラシの出稿量は97%と、7月以降4か月連続で前年を割っており、一昨年比でも割っている。1~10月でも前年割れの状況である。パチンコ業界の低迷が続いているようである。	
	悪くなっている	その他製造業[宝石・貴金属](経営者)	受注量や販売量の動き	・今月行われた宝飾展示会は前年比で30%減、クリスマス用の発注も低調である。店頭が売れていないのが原因であり、大手の間屋も宝飾から手を引くことが発表されるなど、業界ムードも落ち込んでいる。
		建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・今期決算で公共比率85%と前期の89%から民間比率が4%上昇したものの、公共工事主体の業務体質であるため、公共事業削減の影響はまだ大きい。早急な民間受注体制が必要である。
		不動産業(経営者)	取引先の様子	・アパートの管理業務を行っているが、空室が毎月着実に増えてきている。
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社(経営者)	採用者数の動き	・3か月前より採用者数の動きが活発になっている。
		人材派遣会社(経営者)	求人数の動き	・求人に伴う企業の募集経過は、8月と比べるとかなり良くなってきている。求職者数については、人の動きはあまり見られなかったようである。
	変わらない	求人情報誌製作会社(経営者)	求人数の動き	・半年前くらいから見ると、かなり雇用が発生している。撤退した工場跡地に専門店、シネコンがオープンすることが一因で、求人数が増えている。同時に周辺のファミリーレストラン、アウトレット、外食等のパート賃金も50、100円など、かなり値上げに入ってきている。
		求人情報誌製作会社(経営者)	周辺企業の様子	・求人広告誌に掲載する企業は多くあるものの、多くがサービス業で、中でも飲食店、遊技場が多い。また、常に同じ企業、店舗の募集が多い。
		民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・一般求人は若干減りつつあるが、技術職、専門職の求人は相変わらずおう盛である。
		学校[短期大学](就職担当)	求人数の動き	・思ったほど直接求人はないが、合同ガイダンスへの参加企業と求人数は前年を上回っている。この時期は職種等に偏る傾向があり、専門、技術職、営業職以外は求人数の伸びはさほど期待できない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社(営業担当)	周辺企業の様子	・400人規模のリストラ(正社員150人、非正規250人)が決まり、雇用不安がある。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人、有効求人共に前年同月を下回る状況が続いている。特に、非正規求人の減少幅が大きくなっており、景気動向に対する模様眺めの感がある。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・大きな変化は見られないが、卸売、小売業からの求人が減少傾向を示している。
	悪くなっている	-	-	